

新潟県沿岸の津波の痕跡を調べています

福島第一原子力発電所の事故発生以来、地域の皆さまに大変なご心配とご迷惑をお掛けしており、改めて心よりお詫び申し上げます。

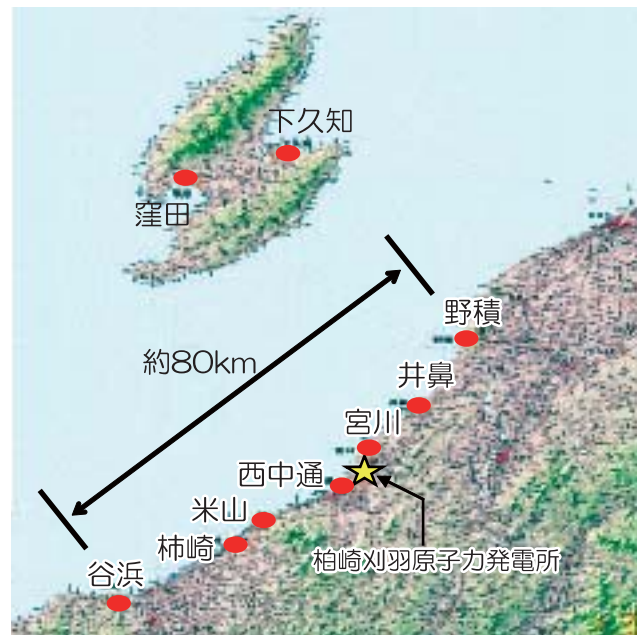
柏崎刈羽原子力発電所では、様々な津波対策に取り組んでおりますが、地域の皆さまにより一層のご安心をいただけるよう、11月15日から新潟県沿岸における過去の津波の堆積物調査を開始しました。

何のために調べるのか？

- ◆ 歴史記録が少ない江戸時代以前から7000年前までの新潟県沿岸部での津波について、その痕跡を調査し、知見を拡充することを目的としています。
- ◆ 平成24年4月下旬を目途に調査を行い、結果については地域の皆さまにお知らせしてまいります。

どこを調べるのか？

- ◆ 新潟県の本州側沿岸の7地点と佐渡島沿岸の2地点を予定しています。
- ◆ 津波堆積物が堆積しており古い地層も残っている可能性が高い場所を選んで調査します。
- ◆ 調査の状況に応じて調査地点や内容を追加する場合があります。

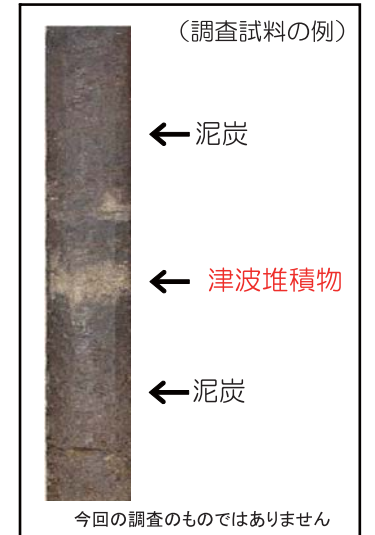


どうやって調べるのか？

- ◆ 各調査地点で複数本のボーリングにより地下3m程度までの調査試料を採取し津波によって海から陸地に運ばれてきた砂等の津波堆積物の有無を調べます。
- ◆ 津波堆積物の状況から、津波の高さと広がり、発生年代を推定します。



11月15日柏崎市宮川の調査



これまでの知見は？

- ◆ 発電所周辺の過去の主な津波は以下のとおりです。
 - ・ 1833年の山形沖の地震：出雲崎で2.5m程度とされています。
 - ・ 新潟地震（1964年）：出雲崎で1.3m、柏崎で1.5m。
 - ・ 北海道南西沖地震（1993年）：寺泊で1.7m、柏崎で1.9m。
- ◆ 津波の高さは、津波の発生源の位置、海底および海岸の地形などが大きく影響します。
- ◆ 柏崎刈羽原子力発電所の耐震設計審査指針に基づく想定津波高さは3.3mです。また現在工事中の防潮堤の高さは15mです。今回の調査により新たな知見が得られれば適切に反映してまいります。